

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 国際教養大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル社会でリーダーシップを執る上で必須の英語によるコミュニケーション能力・交渉力、多様な価値観・意見を調整・統合するコーディネート力、事象の多角的分析力、そして、チームで仕事を遂行する上で必要な柔軟性を身につけた人材を輩出する。また、協働教育を通じた米国大学教員との学術交流により、教員の国際的資質を高め、専門性を強化する。

## 【構想の概要】

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」を導入し、日米間の学生交流を通して、学生が国際社会で活躍する上で必要な各種スキルの習得を促進する。また、「日米教員協働プラットフォーム」を構築し、プロジェクト科目を協働でデザインする日米の大学教員の協働研究の場として位置づけ、国際的な学術交流と研鑽の機会を増やす。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 日米協働課題解決型プロジェクト(PBL: Project-Based Learning)科目の開講

本学と米国大学とが協働で構築・開講するPBL科目では、双方の大学から5名程度の学生がチームを構成し、PBL科目ごとに設定されたテーマについて、理論・概念等を講義で学んだ後、それらを統合的に実社会で応用するための訓練として調査・研究を日米両方のフィールドで行う。学生は、地域社会に根差した課題・問題群が複雑な相関関係にあることを学びつつ、日米の学生の異なる視点から、地域が抱える課題について学び、議論し、学生なりの「解」を探し出していく。

### ○ 日米教員協働プラットフォーム(FCA: Faculty Collaboration Arena)の活用

PBL科目実施に携わる教員を中心に、それぞれの大学で行われるPBL科目の事前検討から実施、授業評価に至るまでのプロセスを共有し、ワークショップやシンポジウムを通して研鑽していくことで、PBLひいては協働教育の効果を探っていく。

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



(GSP389のフィールド活動、)  
オレゴン州ワロワ郡にて)

### ○ 平成27年度PBL科目の開講

- GSP389: Developing Resilient Rural Communities in the United States and Japan (オレゴン州立大学と協働開講)
- GSP392: Living Well in Later Life (ディキンソン・カレッジと協働開講)
- GSP394: Transnational Community and Immigrant Incorporation in Japan and the U.S. (カリフォルニア大学バークレー校と協働開講)
- INT341: Local Contribution of Universities in Japan and the U.S. (オレゴン大学と協働開講)

### ○ 今後の協働教育の展開

これまで米国内の提携大学との協働教育(PBL科目)を複数開講してきたが、そのうちカリフォルニア大学バークレー校とのPBL科目は事業終了後も大学独自の取組として継続開

講する。米国ペロイト大学からは新たにPBL科目の協働実施を要請され、検討している。またスーパーグローバル大学創成支援事業により、新たにASEAN諸国の大学とのPBL科目を開講するなど、協働教育の展開を図っている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成27年度のPBL科目履修のために、オレゴン州立大学へ3名、カリフォルニア大学バークレー校へ5名、オレゴン大学へ3名、計11名の学生を本学から派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成27年度のPBL科目履修のため、オレゴン州立大学から5名、ディキンソン・カレッジから4名、カリフォルニア大学バークレー校から5名、オレゴン大学から4名、計18名の留学生を本学へ受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	-	5	15	13	11
学生の受入	-	-	16	10	18

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

英語での授業、交換留学がカリキュラムの根幹にある本学では、通常業務の一環として日本人学生の派遣および留学生の受け入れを行っている。専任教員によるアドバイザー制度、国際センターによる総合的な留学支援体制、単位認定制度の確立など、従来の留学サポートに加え、新たに設けた展開力事業担当チームが学習および生活面をサポートする体制を整えた。また、従来の生活支援・教務支援に加え、日米両国でのPBL科目の活動支援も行った。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

予定していた交流大学以外の米国大学ともPBL科目を開講したことで、米国内大学とのネットワーク強化が図られた。また、各PBL科目の成果報告書を冊子にして日米関係者に配布したことで、本学の取組の普及を図った。PBL科目の活動や成果は、ホームページ(<http://web.aiu.ac.jp/icpt/>)で情報公開している。

平成27年10月23日に、統括シンポジウム「大学教育におけるPBLの役割～課題と可能性」を開催し、本学の取組を発信した。



(統括シンポジウム@一橋講堂)